

基本計画書

基 本 計 画 書								
事項	記 入 欄						備 考	
計画の区分	研究科の専攻の設置（国際連携専攻）							
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジン キョウトコウゲイセンイダイガク 国立大学法人 京都工芸繊維大学						【連携外国大学の設置者】 タイ王国 チェンマイ大学	
フリガナ大学の名称	キョウトコウゲイセンイダイガクダイガクイン 京都工芸繊維大学大学院（Kyoto Institute of Technology Graduate School）						【連携外国大学の名称】 Chiang Mai University （มหาวิทยาลัยเชียงใหม่）	
大学本部の位置	京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地						【連携外国大学の本部の位置】 239, Huay Kaew Road, Muang District, Chiang Mai Thailand, 50200	
大学の目的	本学大学院は、科学技術の進展や社会の要請に応えるべく、21世紀の産業と文化を創出する国際的・高度専門技術者・研究者の養成を目的とする。							
新設学部等の目的	建築学分野における専門的知識・技術を熟知し、他分野との緊密な連携により、世界をリードするデザインマインド及び研究心を持った国際的な建築家・技術者・研究者、そして新しい時代を開拓するオピニオンリーダーの養成を目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	大学院工芸科学研究科 [Graduate School of Science and Technology] 京都工芸繊維大学・ チェンマイ大学国際連 携建築学専攻 [Kyoto Institute of Technology and Chiang Mai University Joint Master's Degree Program in Architecture]	2年	4人 <510>	-	8人 <1020>	修士（建築学） (Master of Architecture)	平成29年4月 第1年次	京都府京都市左京区 松ヶ崎橋上町1番地
計			4	-	8			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	大学院工芸科学研究科 建築学専攻【入学定員減】(△4)(平成29年4月)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	京都工芸繊維大学・ チェンマイ大学 国際連携建築学専攻	講義	演習	実験・実習	計			
		48科目	16科目	15科目	79科目	36単位		

<>内の数字は本専攻を置く研究科の収容定員等

教員	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	【連携外国大学と調整を行う専任教員の状況等】 人数：1名 職名：教授 所属：京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻
			教授	准教授	講師	助教	計		
新設	京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻		12人 (12)	8人 (8)	4人 (4)	7人 (7)	31人 (31)	0人 (0)	4人 (4)
	計		12人 (12)	8人 (8)	4人 (4)	7人 (7)	31人 (31)	0人 (0)	- (-)
既設	大学院工芸科学研究科 応用生物学専攻		11 (11)	10 (10)	0 (0)	8 (8)	29 (29)	0 (0)	1 (1)
	大学院工芸科学研究科 材料創製化学専攻		7 (7)	7 (7)	0 (0)	5 (5)	19 (19)	0 (0)	5 (5)
組	大学院工芸科学研究科 材料制御化学専攻		8 (8)	6 (6)	0 (0)	5 (5)	19 (19)	0 (0)	10 (10)
	大学院工芸科学研究科 物質合成化学専攻		8 (8)	5 (5)	0 (0)	5 (5)	18 (18)	0 (0)	4 (4)
織	大学院工芸科学研究科 機能物質化学専攻		8 (8)	6 (6)	0 (0)	4 (4)	18 (18)	0 (0)	4 (4)
	大学院工芸科学研究科 電子システム工学専攻		14 (14)	9 (9)	2 (2)	5 (5)	30 (30)	0 (0)	3 (3)
設	大学院工芸科学研究科 情報工学専攻		10 (10)	7 (7)	1 (1)	4 (4)	22 (22)	0 (0)	11 (11)
	大学院工芸科学研究科 機械物理学専攻		7 (7)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	2 (2)
の	大学院工芸科学研究科 機械設計学専攻		6 (6)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	15 (15)	0 (0)	5 (5)
	大学院工芸科学研究科 デザイン経営工学専攻		6 (6)	4 (4)	1 (1)	2 (2)	13 (13)	1 (1)	13 (13)
概	大学院工芸科学研究科 デザイン学専攻		4 (4)	7 (7)	1 (1)	2 (2)	14 (14)	1 (1)	29 (29)
	大学院工芸科学研究科 建築学専攻		11 (11)	8 (8)	4 (4)	7 (7)	30 (30)	0 (0)	2 (2)
要	大学院工芸科学研究科 先端ファイブ科学専攻		6 (6)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	12 (12)	0 (0)	13 (13)
	大学院工芸科学研究科 バイオベースマテリアル学専攻		5 (5)	4 (4)	0 (0)	4 (4)	13 (13)	0 (0)	5 (5)
分	基盤科学系		18 (18)	11 (11)	1 (1)	0 (0)	30 (30)	1 (1)	0 (0)
	大学戦略推進機構系		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
要	教育研究基盤機構系		3 (3)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
	計		133 (133)	98 (98)	10 (10)	62 (62)	303 (303)	3 (3)	- (-)
合計			134 (134)	98 (98)	10 (10)	62 (62)	304 (304)	3 (3)	- (-)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		118人 (118)		111人 (111)		228人 (228)		
	技術職員		23 (23)		84 (84)		115 (115)		
	図書館専門職員		3 (3)		0 (0)		3 (3)		
	その他の職員		1 (1)		2 (2)		3 (3)		
計			144 (144)		205 (205)		349 (349)		
校地等	区分		専用	共用	共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地		124,283㎡	0㎡	0㎡		124,283㎡		
	運動場用地		18,658㎡	0㎡	0㎡		18,658㎡		
	小計		142,941㎡	0㎡	0㎡		142,941㎡		
	その他		62,204㎡	0㎡	0㎡		62,204㎡		
合計			205,145㎡	0㎡	0㎡		205,145㎡		
校舎	専用		共用		共用する他の学校等の専用		計		
	118,020㎡ (118,020㎡)		0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		118,020㎡ (118,020㎡)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		申請大学全体		
	47室	45室	327室	7室 (補助職員15人)	5室 (補助職員9人)				

専任教員研究室		新設学部等の名称			室数			
		京都工芸繊維大学・チェンマイ大学 国際連携建築学専攻			1 室			
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	京都工芸繊維大学・ チェンマイ大学 国際連携建築学専攻	398160 [155373] (398160 [155373])	5422 [2473] (5422 [2473])	3514 [2888] (3514 [2888])	1548 (1548)	3653 (3653)	75 (75)	
	計	398160 [155373] (398160 [155373])	5422 [2473] (5422 [2473])	3514 [2888] (3514 [2888])	1548 (1548)	3653 (3653)	75 (75)	
図書館		面積 4, 893 m ²		閲覧座席数 544		収納可能冊数 425,611		
体育館		面積 1, 772 m ²		体育館以外のスポーツ施設の概要 武道場、弓道場、テニスコート6面				
経費の 見積り 方法及 持法の 概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
	教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—
	共同研究費等		—	—	—	—	—	—
	図書購入費		—	—	—	—	—	—
	設備購入費		—	—	—	—	—	—
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要			該当なし					
大学の名称		京都工芸繊維大学						
学部等の名称	修業 年限	入学 定員 人	編入学 定員 年次 人	収容 定員 人	学位又 は称号	定員 超過率 倍	開設 年度	所在地
工学部	年	人	年次 人	人				京都府京都市左京 区松ヶ崎橋上町1 番地
応用生物学課程	4	50	—	200	学士（農学）	1.03 平成18年度 改組		平成27年度入学 定員減（△2 人） 平成28年度入学 定員増（2人）
生体分子応用化学課程	4	51	—	204	学士（工学）	平成18年度 改組		平成26年度 生 体分子工学課程 より名称変更 平成27年度入学 定員減（△2 人） 平成28年度入学 定員増（3人）
高分子機能工学課程	4	51	—	204	学士（工学）	1.04 平成18年度 改組		平成27年度入学 定員減（△2 人） 平成28年度入学 定員増（3人）
物質工学課程	4	67	—	268	学士（工学）	平成18年度 改組		平成27年度入学 定員減（△2 人） 平成28年度入学 定員増（4人）
電子システム工学課程	4	61	—	244	学士（工学）	1.06 平成18年度 改組		平成27年度入学 定員減（△2 人） 平成28年度入学 定員増（3人）

既設大学等の状況	情報工学課程	4	61	-	244	学士（工学）	1.02	平成18年度改組	平成27年度入学定員減（△2人） 平成28年度入学定員増（3人）
	機械工学課程	4	86	-	344	学士（工学）	1.04	平成18年度改組	平成27年度機械システム工学課程より名称変更 平成27年度入学定員減（△3人） 平成28年度入学定員増（2人）
	デザイン経営工学課程	4	40	-	160	学士（工学）	1.04	平成18年度改組	平成27年度入学定員減（△2人） 平成28年度入学定員増（2人）
	デザイン・建築学課程	4	116	-	464	学士（工学）	1.01	平成18年度改組	平成26年度造形工学課程より名称変更 平成26年度入学定員減（△15人） 平成28年度入学定員増（6人）
	先端科学技術課程	4	-	35	130	学士（工学）	-	平成18年度改組	平成28年より3年次編入を除き学生募集停止 平成28年度入学定員増（5人）
	3学域共通	2	-	345	90	-	-	-	-
	工芸科学研究科博士前期課程						1.00		
	応用生物学専攻	2	40	-	80	修士（農学）	0.93	平成18年度改組	
	材料創製化学専攻	2	33	-	66	修士（工学）	1.10	平成27年度改組	
	材料制御化学専攻	2	32	-	64	修士（工学）	0.88	平成27年度改組	
	物質合成化学専攻	2	33	-	66	修士（工学）	0.94	平成27年度改組	
	機能物質化学専攻	2	32	-	64	修士（工学）	1.09	平成27年度改組	
	電子システム工学専攻	2	50	-	100	修士（工学）	0.98	平成18年度改組	平成27年度入学定員増（10人）
	情報工学専攻	2	46	-	92	修士（工学）	1.14	平成18年度改組	平成27年度入学定員増（6人）
	機械物理学専攻	2	37	-	74	修士（工学）	1.02	平成27年度改組	
	機械設計学専攻	2	30	-	60	修士（工学）	0.96	平成27年度改組	
	デザイン経営工学専攻	2	20	-	40	修士（工学）	0.90	平成18年度改組	平成27年度入学定員増（2人）
	デザイン学専攻	2	25	-	50	修士（工学）	1.02	平成26年度改組	
	建築学専攻	2	75	-	150	修士（工学または建築設計学）	1.07	平成26年度改組	
	先端ファイブ科学専攻	2	35	-	70	修士（工学）	1.01	平成18年度改組	平成27年度入学定員増（5人）
	バイオベースマテリアル学専攻	2	22	-	44	修士（工学）	0.81	平成22年度設置	
	工芸科学研究科博士後期課程						0.93		
	生命物質科学専攻	3	-	-	-	博士（工学または学術）	-	平成18年度改組	平成27年より学生募集停止
	バイオテクノロジー専攻	3	6	-	18	博士（工学または学術）	1.33	平成27年度改組	
	物質・材料化学専攻	3	13	-	39	博士（工学または学術）	0.38	平成27年度改組	
	電子システム工学専攻	3	5	-	15	博士（工学または学術）	0.50	平成27年度改組	

設計工学専攻	3	10	-	30	博士（工学または学術）	0.48	平成18年度改組	平成27年度入学定員増（1人）
デザイン学専攻	3	5	-	15	博士（工学または学術）	0.66	平成26年度改組	
建築学専攻	3	7	-	21	博士（工学または学術）	0.80	平成26年度改組	
先端ファイブ科学専攻	3	8	-	24	博士（工学または学術）	1.91	平成18年度改組	
バイオベースマテリアル学専攻	3	6	-	18	博士（工学または学術）	0.88	平成24年度設置	
附属施設の概要	<p>名称：KYOTO Design Lab 目的：建築・都市・デザイン分野における教育研究の推進 所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地 設置年月：平成26年3月 運営費・事業費等：201,800千円/年</p>							
	<p>名称：昆虫先端研究推進センター 目的：(1)ショウジョウバエの利用等を通じた、生命科学分野における教育研究の推進 (2)資源生物の生産、環境保全機能及び生物資源に係る教育研究の推進 (3)昆虫が有する機能の解明及びそれらのヒト医療への応用に係る教育研究の推進 所在地：京都府京都市右京区嵯峨一本木町 設置年月：平成27年7月 運営費・事業費等：40,034千円/年</p>							
	<p>名称：ものづくり教育研究センター 目的：各種加工機械・設備の管理及び提供、ものづくりにかかわる教育・研究の推進 所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：平成27年7月 規模等：建物4,893㎡ 運営費・事業費等：20,461千円/年</p>							
	<p>名称：繊維科学センター 目的：繊維科学・工学分野の教育研究 所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：平成18年4月 運営費・事業費等：32,386千円/年</p>							
	<p>名称：伝統みらい教育研究センター 目的：伝統産業及びそれに係る技術の教育研究 所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：平成22年4月 運営費・事業費等：2,800千円/年</p>							
	<p>名称：附属図書館 目的：学習支援及び研究支援 所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地 設置年月：昭和24年5月 規模等：建物4,893㎡ 運営費・事業費等：77,216千円/年</p>							
	<p>名称：美術工芸資料館 目的：教材として収集してきた資料の所蔵・教育研究・展示 所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：昭和55年4月 規模等：建物2,296㎡ 運営費・事業費等：9,772千円/年</p>							
<p>名称：情報科学センター 目的：基盤情報技術に関する研究 所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：平成16年4月 規模等：建物802㎡ 運営費・事業費等：142,974千円/年</p>								

<p>名 称：環境科学センター 目 的：地球環境を考えた未来型技術研究と研究思想の発信 所 在 地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：平成4年4月 規 模 等：建物340㎡ 運営費・事業費等：14,570千円/年</p>
<p>名 称：機器分析センター 目 的：各種測定・分析機器の集中管理・共同利用の推進 所 在 地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：平成13年4月 運営費・事業費等：19,109千円/年</p>
<p>名 称：アイソトープセンター 目 的：非密封放射線同位元素をトレーサーとして利用した教育研究支援 所 在 地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：昭和62年4月 規 模 等：建物170㎡ 運営費・事業費等：2,078千円/年</p>
<p>名 称：アドミッションセンター 目 的：入学試験に関する調査・研究・進学相談 所 在 地：京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町 設置年月：昭和62年4月 運営費・事業費等：5,701千円/年</p>
<p>名 称：保健管理センター 目 的：学生の健康維持・増進 所 在 地：京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地 設置年月：昭和50年4月 規 模 等：建物389㎡ 運営費・事業費等：9,061千円/年</p>

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要(国際連携学科等)

(京都工芸繊維大学・チェンマイ大学 国際連携建築専攻)

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数				授業形態			教員等の配置						備考																						
					必修	選択	自由	講義等	演習等	実験・実習	申請大学		連携外国大学																											
											教授	准教授	講師	助教授	助手	小計	教授に相当する員		准教授に相当する員	講師に相当する員	助教授に相当する員	助手に相当する員	小計																	
専門	建築設計実習		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	6											5	6	4	3			0	18									兼2:集中 兼1:集中								
K	都市設計実習		1・2, 2Q	京都工芸繊維大学	6											2	2	1					0	7																
I	Graduate Design Studio in Architecture III		1・2, 前	チェンマイ大学																			2	0	2															
T	国際共同設計実習A	○	1・2, 2Q	京都工芸繊維大学・チェンマイ大学	2																		3	4	5											集中				
+	国際共同設計実習B	○	1・2, 4Q	京都工芸繊維大学・チェンマイ大学	2																		3	4	5											集中				
C	建築デザイン		1・2, 2Q	京都工芸繊維大学						○													4	0	5															
M	都市デザイン		1・2, 2Q	京都工芸繊維大学						○													1	0	4															
U	安心安全デザイン技術		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学						○													1	0	2															
履	国際設計プロジェクトI		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学						○													1	0	2													集中		
推	国際設計プロジェクトII		1・2, 2Q	京都工芸繊維大学						○													1	0	2													集中		
奨	地域設計プロジェクトI		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学						○													1	0	2													集中		
奨	地域設計プロジェクトII		1・2, 2Q	京都工芸繊維大学						○													1	0	2													集中		
奨	建築設計学特別講義I		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学						○													5	1	8													集中		
奨	建築設計学特別講義II		1・2, 2Q	京都工芸繊維大学						○													5	1	8													集中		
奨	Development and Management of Local Wisdom and Global Technology		1・2, 前	チェンマイ大学						○													3	0	3													集中		
奨	Application of Theories of Human Behavior in Environmental Studies and Design		1・2, 前	チェンマイ大学						○													3	0	3													集中		
奨	Urban Architecture		1・2, 前	チェンマイ大学						○													3	0	3													集中		
小計	小計 (17科目)		-		16	31	0	0	-													12	8	4	7	0	31	0	3	2	0	0	5	36						
修	都市・建築再生学演習I		1, 通	京都工芸繊維大学	6					○													8	7	4	5												集中		
士	都市・建築再生学演習II		2, 通	京都工芸繊維大学	6					○													8	7	4	5												集中		
の	それ文(研究指導)		1~2, 通	京都工芸繊維大学	-					-													8	7	4	5												集中		
ら	ら・Thesis		1~2, 通	チェンマイ大学	12					○																												集中		
指	都市・建築空間研究A		1・2, 1~2Q	京都工芸繊維大学	3					○													5	3	2	10												集中		
導	都市・建築空間研究B		1・2, 3~4Q	京都工芸繊維大学	3					○													5	3	2	10												集中		
に	(特別制作)		1~2, 通	京都工芸繊維大学	-					-													5	3	2	10												集中		
課	Independent Study		1~2, 通	チェンマイ大学	6					○																												集中		
題	小計 (6科目)		-		0	36	0	0	-														12	8	4	7	0	31	0	7	4	0	11	42						
を	建築史		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2					○													3	2	1	5														
専	都市史		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2					○													2	1	2	5														
門	建築力学・構造特論		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2					○													1			1														
科	建築環境・設備論		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2					○													2			0														
目	住環境設計マネジメント		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2					○													1			3													兼1	
	都市・地域設計マネジメント		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2					○													2	1	2	3														

建築構造設計マネジメント	1・2,1Q	京都工芸繊維大学	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	兼1
建築保存再生技術	1・2,1Q	京都工芸繊維大学	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4	集中
建築構造設計技術	1・2,1Q	京都工芸繊維大学	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	集中
建築設備設計技術	1・2,1Q	京都工芸繊維大学	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	集中
建築設計学特別講義Ⅲ	1・2,3Q	京都工芸繊維大学	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	8	集中
建築設計学特別講義Ⅳ	1・2,4Q	京都工芸繊維大学	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	8	集中
建築再生学特別講義Ⅰ	1・2,1Q	京都工芸繊維大学	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0	24	集中
建築再生学特別講義Ⅱ	1・2,2Q	京都工芸繊維大学	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0	24	集中
建築再生学特別講義Ⅲ	1・2,3Q	京都工芸繊維大学	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0	24	集中
建築再生学特別講義Ⅳ	1・2,4Q	京都工芸繊維大学	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0	24	集中
国際設計プロジェクトⅢ	1・2,3Q	京都工芸繊維大学	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	30	集中
国際設計プロジェクトⅣ	1・2,4Q	京都工芸繊維大学	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	30	集中
地域設計プロジェクトⅢ	1・2,3Q	京都工芸繊維大学	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	30	集中
地域設計プロジェクトⅣ	1・2,4Q	京都工芸繊維大学	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	30	集中
建築都市保存再生プロジェクトⅠ	1・2,1Q	京都工芸繊維大学	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	30	集中
建築都市保存再生プロジェクトⅡ	1・2,2Q	京都工芸繊維大学	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	30	集中
建築都市保存再生プロジェクトⅢ	1・2,3Q	京都工芸繊維大学	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	30	集中
建築都市保存再生プロジェクトⅣ	1・2,4Q	京都工芸繊維大学	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	30	集中
建築設計実務実習Ⅰ	1,通	京都工芸繊維大学	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	30	集中・学外イン ターンシップ
建築設計実務実習Ⅱ	2,通	京都工芸繊維大学	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	30	集中・学外イン ターンシップ
建築設計実務実習Ⅲ	1・2,通	京都工芸繊維大学	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	30	集中・学外イン ターンシップ
小計 (27科目)	—		48	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	31	0	31	
C Pre-Graduate Design Studio	1・2,前	チェンマイ大学	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	
Pre-Graduate Architectural Theory	1・2,前	チェンマイ大学	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
Pre-Graduate Building Technology	1・2,前	チェンマイ大学	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
Research Methodology in Architecture	1・2,前	チェンマイ大学	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
Advanced Specific Architectural Knowledge	1・2,通	チェンマイ大学	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
Graduate Design Studio in Architecture I	1・2,前	チェンマイ大学	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	
Graduate Design Studio in Architecture II	1・2,後	チェンマイ大学	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	
Research for Architectural Design	1・2,通	チェンマイ大学	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
Quantitative Research Methods in Architecture	1・2,通	チェンマイ大学	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
Qualitative Research Methods in Architecture	1・2,通	チェンマイ大学	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
Architectural Technology and Sustainable Environment	1・2,後	チェンマイ大学	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
Specific Research in Architecture I	1・2,通	チェンマイ大学	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	
Specific Research in Architecture II	1・2,通	チェンマイ大学	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	
Critical Theories of Architecture	1・2,通	チェンマイ大学	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
Critical Practices of Architecture	1・2,通	チェンマイ大学	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
Theory of Architecture in Asia	1・2,通	チェンマイ大学	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
Selected Topics in Architectural History and Theory	1・2,通	チェンマイ大学	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
Properties and Behaviors of Architectural Materials	1・2,通	チェンマイ大学	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
Building Technology	1・2,通	チェンマイ大学	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	

Architectural Management	1・2,通	チェンマイ大学	3	○							1		1																
Advanced Professional Practices	1・2,通	チェンマイ大学	3	○							2	1	3																
Theory and Philosophy in Vernacular Architecture	1・2,通	チェンマイ大学	3	○							2	1	3																
Research Approaches in Vernacular Architecture	1・2,通	チェンマイ大学	3	○							2	1	3																
Dynamics of Vernacular Architecture	1・2,通	チェンマイ大学	3	○							2	1	3																
Urban and Community Planning	1・2,通	チェンマイ大学	3	○							2	1	3																
Principles and Practices in Urban Design	1・2,通	チェンマイ大学	3	○							1	1	2																
Environmental Perception and Assessment	1・2,通	チェンマイ大学	3	○							1	1	2																
Selected Topics in Environment and Behavior	1・2,通	チェンマイ大学	3	○							1	1	2																
Special Problem	1・2,通	チェンマイ大学	3	○							7	4	11																
小計 (29科目)	-		0	90	0	-					0	0	0	0	0	12	12												
合計 (79科目)	-		16	205	0	-					12	8	4	7	0	31	0	0	0	12	43								
学位又は称号	修士 (建築学)			学位又は学科の分野			工学関係																						
卒業要件及び履修方法	修士 (建築学)			開設大学等			開設単位数 (必修)		1 学年の学期区分			4期 (京都工芸繊維大学)、2期 (チェンマイ大学)			1 学期の授業期間			8週 (京都工芸繊維大学)、15週 (チェンマイ大学)			1 時限の授業時間			4 (4)			90分		

本専攻に2年以上 (最大4年) 在学し、下記の要件を満たした者について、修士 (建築学) の学位を授与する。

- 1 京都工芸繊維大学の開設科目より15単位以上、チェンマイ大学の開設科目より10単位以上、合計36単位以上を修得する。ただし、チェンマイ大学の学生は、京都工芸繊維大学の開設科目として必要とされる15単位以上のなかに、共同開設科目である「国際共同設計実習A (2単位)」「国際共同設計実習B (2単位)」を含む。
- 2 必修科目である「都市設計実習 (6単位)」を修得し、「Graduate Design Studio in Architecture III (6単位)」を修得する。
- 3 必修科目である共同開設科目「国際共同設計実習A (2単位)」、「国際共同設計実習B (2単位)」を修得する。
- 4 選択必修科目である「建築デザイン (2単位)」、「都市デザイン (2単位)」、「安心安全デザイン技術 (2単位)」、「建築設計学特別講義I (1単位)」、「建築設計学特別講義II (1単位)」から1科目以上を修得する。
- 5 選択必修科目である「Development and Management of Local Wisdom and Global Technology (3単位)」、「Application of Theories of Human Behavior in Environmental Studies and Design (3単位)」、「Urban Architecture (3単位)」から1科目以上を修得する。
- 6 GPAの点数が平均3.00以上の成績を修める。
- 7 「都市・建築再生学演習I」及び「都市・建築再生学演習II」及び「研究指導」、又は「都市・建築空間研究A」及び「都市・建築空間研究B」及び「特別制作」のいずれか、チェンマイ大学の学生は「Thesis」又は「Independent Study」のいずれかを修了する。

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号 (その2の1) に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に在学する学生は、卒業要件に係る学則の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要がある。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要 (国際連携学科等)

(京都工芸繊維大学・チェンマイ大学 国際連携建築学専攻) (京都工芸繊維大学)

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置							備考							
					必修	選択	自由	講義等	演習等	実験・実習	申請大学			連携外国大学											
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する員		准教授に相当する員	講師に相当する員	助教に相当する員	助手に相当する員	小計	合計	
専門科目 K I T 履修科目	建築設計実習		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	6				○			5	6	4	3	18						0	18	兼2：集中 兼1：集中	
	都市設計実習		1・2, 2Q	京都工芸繊維大学	2				○			2	4	1		7							0	7	
	建築デザイン		1・2, 2Q	京都工芸繊維大学	2				○			2	4	1	1	5							0	5	
	都市デザイン		1・2, 2Q	京都工芸繊維大学	2				○			2	4	1	1	4							0	4	
	安心安全デザイン技術		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2				○			2	2	2		2							0	2	
	国際設計プロジェクトI		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2				○			2	8	4	7	31							0	31	集中
	国際設計プロジェクトII		1・2, 2Q	京都工芸繊維大学	2				○			2	8	4	7	31							0	31	集中
	地域設計プロジェクトI		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2				○			2	8	4	7	30							0	30	集中
	地域設計プロジェクトII		1・2, 2Q	京都工芸繊維大学	2				○			2	8	4	7	30							0	30	集中
	建築設計学特別講義I		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	1				○			1	5	1	2	8							0	8	集中
	建築設計学特別講義II		1・2, 2Q	京都工芸繊維大学	1				○			1	5	1	2	8							0	8	集中
	小計 (11科目)					6	22	0				12	8	4	7	31	0	0	0	0	0	0	0	31	
	専門科目	都市・建築再生学演習I		1, 通	京都工芸繊維大学	6				○			8	7	4	5	24						0	24	集中
		都市・建築再生学演習II (研究指導)		1~2, 通	京都工芸繊維大学	6				○			8	7	4	5	24						0	24	集中
	都市・建築空間研究A		1・2, 1~2Q	京都工芸繊維大学	3				○			5	3	2	10							0	10	集中	
	都市・建築空間研究B (特別制作)		1・2, 3~4Q	京都工芸繊維大学	3				○			5	3	2	10							0	10	集中	
	小計 (4科目)				0	18	0				12	8	4	7	31	0	0	0	0	0	0	0	31		
専門科目	建築史		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2				○			3	2	2	5							0	5	兼1	
	都市史		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2				○			2	1	2		5						0	5	兼1	
	建築力学・構造特論		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2				○			1	1		1							0	1	兼1	
	建築環境・設備論		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2				○			2	2		2							0	3	兼1	
	住環境設計マネジメント		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2				○			1	1	2		3						0	3	兼1	
	都市・地域設計マネジメント		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2				○			2	2	1	2							0	3	兼1	
	建築構造設計マネジメント		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2				○			2	1	1	1							0	2	兼1	
	建築保存再生技術		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2				○			2	3	1	1	4						0	4	兼1	
	建築構造設計技術		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2				○			2	1	1	1	3						0	3	兼1	
	建築設備設計技術		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2				○			2	1	1	1	3						0	3	兼1	
	建築設計学特別講義III		1・2, 3Q	京都工芸繊維大学	1				○			5	1	4	2	8						0	8	兼1	
	建築設計学特別講義IV		1・2, 4Q	京都工芸繊維大学	1				○			5	1	2	2	8						0	8	兼1	
	建築再生学特別講義I		1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	1				○			8	7	4	5	24						0	24	兼1	
	建築再生学特別講義II		1・2, 2Q	京都工芸繊維大学	1				○			8	7	4	5	24						0	24	兼1	
建築再生学特別講義III		1・2, 3Q	京都工芸繊維大学	1				○			8	7	4	5	24						0	24	兼1		
建築再生学特別講義IV		1・2, 4Q	京都工芸繊維大学	1				○			8	7	4	5	24						0	24	兼1		
国際設計プロジェクトIII		1・2, 3Q	京都工芸繊維大学	2				○			11	8	7	4	7	24					0	24	兼1		

国際設計プロジェクトⅣ	1・2, 4Q	京都工芸繊維大学	2	○	11	8	4	7	30	0	30	集中
地域設計プロジェクトⅢ	1・2, 3Q	京都工芸繊維大学	2	○	11	8	4	7	30	0	30	集中
地域設計プロジェクトⅣ	1・2, 4Q	京都工芸繊維大学	2	○	11	8	4	7	30	0	30	集中
建築都市保存再生プロジェクトⅠ	1・2, 1Q	京都工芸繊維大学	2	○	11	8	4	7	30	0	30	集中
建築都市保存再生プロジェクトⅡ	1・2, 2Q	京都工芸繊維大学	2	○	11	8	4	7	30	0	30	集中
建築都市保存再生プロジェクトⅢ	1・2, 3Q	京都工芸繊維大学	2	○	11	8	4	7	30	0	30	集中
建築都市保存再生プロジェクトⅣ	1・2, 4Q	京都工芸繊維大学	2	○	11	8	4	7	30	0	30	集中
建築設計実務実習Ⅰ	1, 通	京都工芸繊維大学	2	○	11	8	4	7	30	0	30	集中・学外イン ターンシップ
建築設計実務実習Ⅱ	2, 通	京都工芸繊維大学	2	○	11	8	4	7	30	0	30	集中・学外イン ターンシップ
建築設計実務実習Ⅲ	1・2, 通	京都工芸繊維大学	2	○	11	8	4	7	30	0	30	集中・学外イン ターンシップ
小計 (27科目)	—		0	48	0	—						
合計 (42科目)	—		6	88	0	—						

学位又は称号	修士 (建築学)	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件	修士 (建築学)	開設大学等	開設単位数 (必修)

京都工芸繊維大学	94 (6)	1 学年の学期区分	4期
共同開設科目		1 学期の授業期間	8週
		1 時限の授業時間	90分

本専攻に2年以上 (最大4年) 在学し、下記の要件を満たした者について、修士 (建築学) の学位を授与する。

- 1 京都工芸繊維大学の開設科目より15単位以上、チェンマイ大学の開設科目より10単位以上、合計36単位以上を修得する。ただし、チェンマイ大学の学生は、京都工芸繊維大学の開設科目として必要とされる15単位以上のなかにも、共同開設科目である「国際共同設計実習A (2単位)」「国際共同設計実習B (2単位)」を含む。
- 2 必修科目である「都市設計実習 (6単位)」を修得し、「Graduate Design Studio in Architecture III (6単位)」を修得する。
- 3 必修科目である共同開設科目「国際共同設計実習A (2単位)」、「国際共同設計実習B (2単位)」を修得する。
- 4 選択必修科目である「建築デザイン (2単位)」、「都市デザイン (2単位)」、「安心安全デザイン技術 (2単位)」、「建築設計学特別講義I (1単位)」、「建築設計学特別講義II (1単位)」から1科目以上を修得する。
- 5 選択必修科目である「Development and Management of Local Wisdom and Global Technology (3単位)」、「Application of Theories of Human Behavior in Environmental Studies and Design (3単位)」、「Urban Architecture (3単位)」から1科目以上を修得する。
- 6 GPAの点数が平均3.00以上の成績を修める。
- 7 「都市・建築再生学演習Ⅰ」及び「都市・建築再生学演習Ⅱ」及び「研究指導」、又は「都市・建築空間研究A」及び「都市・建築空間研究B」及び「特別制作」のいずれか、チェンマイ大学の学生は「Thesis」又は「Independent Study」のいずれかを修了する。

(注) 国際連携学科学等を設置する場合は、別記様式第2号 (その2の1) に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科学等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとすると大学の書類に含めること。

- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に在籍する学生に於ける卒業要件の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要がある。
- 3 開設する授業科目に於いて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要（国際連携学科等）

（京都工芸繊維大学・チェンマイ大学 国際連携建築専攻）（チェンマイ大学）

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数				授業形態			教員等の配置						備考																																									
					必修	選択	自由	講義等	演習等	実験・実習	申請大学			連携外国大学																																													
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する員		准教授に相当する員	教授に相当する員	助手に相当する員	小計	合計																																				
	Graduate Design Studio in Architecture III Development and Management of Local Wisdom and Global Technology Application of Theories of Human Behavior in Environmental Studies and Design Urban Architecture		1・2,前 1・2,前 1・2,前 1・2,前	チェンマイ大学 チェンマイ大学 チェンマイ大学 チェンマイ大学	6 3 3 3		0		0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	1	1	2																																					
	小計（4科目）		—		6	9	0		—		—	—	12	8	4	7	0	31	0	3	2	0	0	5	36																																		
修士論文・特定の指導に關する課題またそれらの指導に關する課題	Thesis Independent Study		1～2,通 1～2,通	チェンマイ大学 チェンマイ大学		12 6				0	0	0	7	4			0	11		7	4		11	11																																			
小計（2科目）			—		0	18	0		—		—	12	8	4	7	0	31	0	7	4	0	0	11	42																																			
C 専門科目	Pre-Graduate Design Studio Pre-Graduate Architectural Theory Pre-Graduate Building Technology Research Methodology in Architecture Advanced Specific Architectural Knowledge Graduate Design Studio in Architecture I Graduate Design Studio in Architecture II Research for Architectural Design Quantitative Research Methods in Architecture Qualitative Research Methods in Architecture Architectural Technology and Sustainable Environment Specific Research in Architecture I Specific Research in Architecture II Critical Theories of Architecture Critical Practices of Architecture Theory of Architecture in Asia		1・2,前 1・2,前 1・2,前 1・2,前 1・2,通 1・2,前 1・2,後 1・2,通 1・2,通 1・2,通 1・2,後 1・2,通 1・2,通 1・2,後 1・2,通 1・2,通 1・2,通	チェンマイ大学 チェンマイ大学	2 2 2 3 3 6 6 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3		0			0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

Selected Topics in Architectural History and Theory	1・2,通	チェンマイ大学	3	○	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2								
Properties and Behaviors of Architectural Materials	1・2,通	チェンマイ大学	3	○												1	1									
Building Technology	1・2,通	チェンマイ大学	3	○												1	1									
Architectural Management	1・2,通	チェンマイ大学	3	○												1	1									
Advanced Professional Practices	1・2,通	チェンマイ大学	3	○											2	1	3									
Theory and Philosophy in Vernacular Architecture	1・2,通	チェンマイ大学	3	○											2	1	3									
Research Approaches in Vernacular Architecture	1・2,通	チェンマイ大学	3	○											2	1	3									
Dynamics of Vernacular Architecture	1・2,通	チェンマイ大学	3	○											2	1	3									
Urban and Community Planning	1・2,通	チェンマイ大学	3	○											2	1	3									
Principles and Practices in Urban Design	1・2,通	チェンマイ大学	3	○											1	1	1									
Environmental Perception and Assessment	1・2,通	チェンマイ大学	3	○											2	2	2									
Selected Topics in Environment and Behavior	1・2,通	チェンマイ大学	3	○											1	1	2									
Special Problem	1・2,通	チェンマイ大学	3	○											1	1	1									
小計 (29科目)	—		90	0	—										7	4	11	11								
合計 (35科目)	—		6	117	0	—								12	8	4	7	0	31	0	8	4	0	0	12	43

学位又は称号		業 要 件 及 び 履 修 方 法		開 設 大 学 等		開 設 単 位 数 (必 修)		1 学 年 の 学 期 区 分		授 業 期 間 等	
修士 (建築学)		—		京都工芸繊維大学		123(6)		1 学期の授業期間		2 期	
学位又は称号の分野		—		チェンマイ大学 共同開設科目				1 学期の授業時間		15 週	
								1 時限の授業時間		90分	

<p>本専攻に2年以上 (最大4年) 在学し、下記の要件を満たした者について、修士 (建築学) の学位を授与する。</p> <p>1 京都工芸繊維大学の開設科目より15単位以上、チェンマイ大学の開設科目より10単位以上、合計36単位以上を修得する。ただし、チェンマイ大学の学生は、京都工芸繊維大学の開設科目として必要とされる15単位以上のなかに、共同開設科目である「国際共同設計実習A (2単位)」「国際共同設計実習B (2単位)」を含む。</p> <p>2 必修科目である「都市設計実習 (6単位)」を修得し、「Graduate Design Studio in Architecture III (6単位)」を修得する。</p> <p>3 必修科目である共同開設科目「国際共同設計実習A (2単位)」、「国際共同設計実習B (2単位)」を修得する。</p> <p>4 選択必修科目である「建築デザイン (2単位)」、「都市デザイン (2単位)」、「安心安全デザイン技術 (2単位)」、「建築設計学特別講義I (1単位)」、「建築設計学特別講義II (1単位)」「から1科目以上を修得する。</p> <p>5 選択必修科目である「Development and Management of Local Wisdom and Global Technology (3単位)」、「Application of Theories of Human Behavior in Environmental Studies and Design (3単位)」、「Urban Architecture (3単位)」から1科目以上を修得する。</p> <p>6 GPAの点数が平均3.00以上の成績を修める。</p> <p>7 「都市・建築再生学演習 I」及び「都市・建築再生学演習 II」及び「研究指導」、又は「都市・建築空間研究A」及び「都市・建築空間研究B」及び「特別制作」のいずれか、チェンマイ大学の学生は「Thesis」又は「Independent Study」のいずれかを修了する。</p>

(注)

- 1 国際連携学科学等を設置する場合は、別記様式第2号 (その2の1) に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科学等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の取寄定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要がある。
- 3 開設する授業科目に応じ、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工芸科学研究科 建築学専攻博士前期課程（修士課程）)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目群	建築家職能論	1・2前	2			○			3	1					兼1 兼1 兼1
	都市・建築設計実習Ⅰ	1前	3					○		8	2	6			
	都市・建築設計実習Ⅱ	1後	3					○		8	2	6			
	建築力学・構造特論	1・2前		2		○			1	1					
	建築環境・設備論	1・2後		2		○									
	防災設計技術	1・2後		2			○			2					
	伝統建築設計技術	1・2前		2			○		1	2					
	建築設備設計技術	1・2後		2				○							
	建築構造設計技術	1・2前		2				○	1	1					
	日本建築史特論	1・2前		2		○				2					
	世界建築史特論	1・2後		2		○			2	1					
小計（11科目）		—	8	16	0		—		6	8	2	6	0		
専門科目群	建築デザイン	1・2後		2		○			4	1					社会人特別入試に合格し入学した者のみ履修可 社会人特別入試に合格し入学した者のみ履修可
	環境デザイン	1・2前		2		○			3						
	都市デザイン	1・2後		2		○			1			1			
	建築設計マネジメント	1・2後		2		○			2	1					
	地域施設設計マネジメント	1・2前		2		○				1	1				
	住環境設計マネジメント	1・2後		2		○			1						
	都市環境設計マネジメント	1・2前		2		○			3						
	建築構造設計マネジメント	1・2後		2		○			1	1					
	都市・建築空間研究A	1・2前	2				○			8			3		
	都市・建築空間研究B	1・2後	2				○			8			3		
	建築設計実務実習Ⅰ	1通	4					○		8			3		
	建築設計実務実習Ⅱ	2通	4					○		8			3		
	建築設計実務実習Ⅲ	1・2通		4				○		8			3		
	国際設計プロジェクトⅠ	1通		2			○		2	8			2		
	国際設計プロジェクトⅡ	2通		2			○		2	8			2		
	建築設計学特別講義A	1通		1		○				8			3		
	建築設計学特別講義B	2通		1		○				8			3		
	建築設計学インターンシップⅠ	1通		6			○			8			3		
	建築設計学インターンシップⅡ	1通		6			○			8			3		
	特別制作	1～2通		—	—	—	—	—		5	8	1			
小計（20科目）		—	12	38	0		—		10	8	1	4	0		

都市・建築再生学領域	日本都市史	1・2前		2		○		2		1		
	世界都市史	1・2後		2		○		2	1	1		
	建築保存工学	1・2前		2		○		1	1			
	保存活用デザイン論	1・2前		2		○		3				
	サステナビリティ計画論	1・2前		2		○		1	1			
	景観学特論	1・2後		2		○		1		1		
	地域管理論	1・2前		2		○			2	1		
	都市基盤学	1・2後		2		○		2				
	建築・都市再生学演習	1・2通		4			○	4	2	2		
	保存再生技術演習	1・2前		4			○	2	2			
	近代建築保存技術	1・2前		4			○	2	1			
	都市再生マネジメント演習	1・2後		4			○	1	1			
	都市・建築再生設計インターンシップⅠ	1・2通		6			○	9	6	2	3	
	都市・建築再生設計インターンシップⅡ	1・2通		6			○	9	6	2	3	
	都市・建築再生学演習Ⅰ	1通	4				○	9	6	2	3	
	都市・建築再生学演習Ⅱ	2通	4				○	9	6	2	3	
	研究指導	1～2通	-	-	-	-	-	9	6	2	3	
小計 (17科目)	-	8	44			-	11	7	2	3	0	
合計 (48科目)		-	28	98	0	-	11	8	4	7	0	
学位又は称号	修士 (工学), 修士 (建築設計学)		学位又は学科の分野				工学関係					
卒業要件及び履修方法							授業期間等					
専攻共通科目群より10単位以上、専門科目群より20単位以上、合計30単位以上取得すること。							1 学年の学期区分			2 期		
							1 学期の授業期間			15 週		
							1 時限の授業時間			90 分		

(注)

- 1 学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には, 授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合, 大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は, この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて, 適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。

授業科目の概要(国際連携学科等)				
(京都工芸繊維大学・チェンマイ大学 国際連携建築学専攻)				
科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門一履修推奨科目	京都工芸繊維大学	建築設計実習	建築設計を通して、具体的に設計の実務方法を学ぶ。専攻教員の実務経歴で得られた専門知識にもとづく授業であり、実務訓練と同等となる内容を充足し、実務経験がある教員と学生との一対一の対話型演習が、授業時間の半分以上を占める実践的教育である。合わせて、現在活躍中の建築家を招いて事例にもとづいて双方型の演習を行い、設計の実務経験と同等性を十分に有する建築設計教育を目的とする。いずれの課題においても、指導においては建築士の資格を持つものがこれを行う。	
	京都工芸繊維大学	都市設計実習	建築設計、建築計画、建築保存再生、建築史、都市史、建築構造など各分野における具体的な実務方法を学ぶ。実務訓練と同等となる内容を充足し、教員と学生との一対一の対話型演習を中心とした実践的教育である。	
	チェンマイ大学	Graduate Design Studio in Architecture III	教員による指導の下、大規模或いは高複雑度の建築物デザインについて学び、実践する。建築・環境デザインのプロセスを利用し、過去の研究を利用して理論、骨組み、技術を検証、収集、分析する。	
	京都工芸繊維大学・チェンマイ大学	国際共同設計実習A	設計やフィールドワークなどを本学とチェンマイ大学の学生が合同で行う実習であり、本学とチェンマイ大学の双方の教員が合同で指導する。	共同開設科目
	京都工芸繊維大学・チェンマイ大学	国際共同設計実習B	設計やフィールドワークなどを本学とチェンマイ大学の学生が合同で行う実習であり、本学とチェンマイ大学の双方の教員が合同で指導する。	共同開設科目
	京都工芸繊維大学	建築デザイン	現代建築を参考として、またその建築家自身を採り上げ、それらの作品分析や建築家を通し、時代性や場所性の読み取り、計画への落とし込みを探る。建築家としての社会的要求や方向性、そして計画手法や作家性を学ぶ。それぞれの建築作品の特質を読みとり、空間的な魅力をもたらしているものは何かを探り、個々の建築作品の分析を通して建築家の設計手法の違いについても知識を得る事が目的である。	
	京都工芸繊維大学	都市デザイン	個々の建築は都市を構成する文脈の要素として機能している。都市と建築のプロデュース能力を涵養するために、都市の機能と配置、そのデザイン性を追求するための講義である。既存の用途地域策定の都市計画ではなく、建築物群とインフラ群、そしてランドスケープを併せた快適性とデザイン性を有した計画都市を構成するためのスタディを学ぶ。	
	京都工芸繊維大学	安心安全デザイン技術	建築における、転落、転倒、衝突、健康など日常的な安心・安全のためのデザインを考える。また、群衆事故、ビル火災、浸水被害など人命に関わる非日常的な安心・安全のためのデザインを考える。	
	京都工芸繊維大学	国際設計プロジェクトI	国際的環境下で、建築設計を行い、国際的センスを伴う将来働ける能力やチームワーク力の養成を目的とする。	
	京都工芸繊維大学	国際設計プロジェクトII	国際的環境下で、建築設計を行い、国際的センスを伴う将来働ける能力やチームワーク力の養成を目的とする。	
	京都工芸繊維大学	地域設計プロジェクトI	地域における建築設計を行い、地域に根ざした建築を考える能力やチームワーク力の養成を目的とする。	
	京都工芸繊維大学	地域設計プロジェクトII	地域における建築設計を行い、地域に根ざした建築を考える能力やチームワーク力の養成を目的とする。	
	京都工芸繊維大学	建築設計学特別講義I	現代の建築界の最前線で活躍する国内外の建築家、または、構造、設備技術者等を招聘し、その設計方法や建築思想について論じてもらう。	
	京都工芸繊維大学	建築設計学特別講義II	現代の建築界の最前線で活躍する国内外の建築家、または、構造、設備技術者等を招聘し、その設計方法や建築思想について論じてもらう。	
	チェンマイ大学	Development and Management of Local Wisdom and Global Technology	建築の伝統知恵とグローバルテクノロジーとの相互作用と重要性、これら知識の建築分野への融合・応用について理解したうえで、伝統建築や建築技術の発展・管理を図る。	
	チェンマイ大学	Application of Theories of Human Behavior in Environmental Studies and Design	人間と環境の関係性について理解する。環境の中での人間の内的行動及び外的行動、生活環境論、人間行動論を学ぶ。行動学的研究にもアプローチし、環境デザインに活かす。	
	チェンマイ大学	Urban Architecture	都市計画と建築の関係性について学ぶ。都市建築の形成と発展、類型、アジア地域の都市建築、タウン建築(town architecture)、都市建築と文化的景観、都市建築への批評等を考察する。	

修士論文・特定の課題またはそれらの指導に関する科目	京都工芸繊維大学	都市・建築再生学演習I	実際に建築や都市を再生させた事業について、その過程を現地で学びながら、そこで必要とされる知識と技能について実践的に学ぶ。	
	京都工芸繊維大学	都市・建築再生学演習II	実際に建築や都市を再生させた事業について、その過程を現地で学びながら、そこで必要とされる知識と技能について実践的に学ぶ。	
	京都工芸繊維大学	研究指導	建築学専攻都市・建築再生学領域の理念に基づいた研究指導を行なう。研究の成果は、中間発表や学会発表を経て学位論文としてまとめ、修了時には学位論文研究の発表を行ない最終試験を受ける。	
	チェンマイ大学	Thesis	関心領域における特別な課題において指導教員に相談のうえ、修士論文特殊研究に取り組む。	
	京都工芸繊維大学	都市・建築空間研究A	空間の有効利用や地域活性化に寄与するための建築的提案について、事例をもとに調査研究、討論し、企画を作成する。専攻教員の実務経歴で得られた専門知識にもとづく授業であり、実務訓練と同等となる内容を充足し、実務経験がある教員と学生との一対一の対話型演習が、授業時間の半分以上を占める実践的教育である。合わせて、事例にもとづいて双方型の演習を行い、設計の実務経験と同等性を十分に有する建築設計教育を目的とする。指導においては、建築士の資格を持つものがこれを行う。	
	京都工芸繊維大学	都市・建築空間研究B	空間の有効利用や地域活性化に寄与するための建築的提案について、事例をもとに調査研究、討論し、企画を作成する。専攻教員の実務経歴で得られた専門知識にもとづく授業であり、実務訓練と同等となる内容を充足し、実務経験がある教員と学生との一対一の対話型演習が、授業時間の半分以上を占める実践的教育である。合わせて、事例にもとづいて双方型の演習を行い、設計の実務経験と同等性を十分に有する建築設計教育を目的とする。指導においては、建築士の資格を持つものがこれを行う。	
	京都工芸繊維大学	特別制作	学生が自主的に取り組んだ建築設計活動、建築調査活動について、学内において一定の発表形式をもってプレゼンテーションさせ、学内教員の評価をもって一定の単位を与える科目である。学習対象が極めて広い建築という分野において、インターンシップのように所定の外部組織に所属して行われる活動以外の社会的活動についても、内容に応じた評価をあたえることで、積極的な社会学習の機会を得ることを目的とする。	
	チェンマイ大学	Independent Study	研究計画画或いは進行中の自主研究計画に基づいて研究を実行する。	
	京都工芸繊維大学	建築史	様式や意匠、構造や生産組織、さらには素材や道具といった、日本建築史およびその周辺に関わる様々な事象、あるいは建築における「日本」ないし「和風」という概念を詳細に学ぶことにより、日本建築をより深くかつ正確に理解する。また、西洋建築にアジア・日本近代を加えて「世界建築」とし、その全体像を伝えるとともに、地域・時代の特性に応じてビルディング・タイプあるいは建築思潮に即した各論をも講述する。	
	京都工芸繊維大学	都市史	特定の地域をフォーカスし、日本の都市成立の特徴について文化との関連も含めて考えていく。また、建築を成立させる世界の都市の歴史について、欧米とアジアを中心に講じる。通史的な概観を基礎として、地域的特質についても適宜触れる。	
	京都工芸繊維大学	建築力学・構造特論	建築物の静的挙動や地震や風に対する応答を把握するためには、数値解析が不可欠である。建築において理解すべき理論や一般的に使用されている数値解析法について解説するとともに、理論を把握した上でプログラミングを行い、数値解析における問題点・注意点などの理解を深める。	
	京都工芸繊維大学	建築環境・設備論	環境の生物として恒常性を保つために人体に備わった物理・心理機構の基礎を述べ、その動作方向と快適性について講述する。機械装置を持たないときに人間が環境対処法を様々な工夫してきた歴史を風土建築に辿り、自然利用の要件を際立った形で概観する。暖房・冷房・換気の過去と現在を参照し、アクティブ方策・パッシブ方策の適切な役割を理解させる。地球環境の変遷と現代の温暖化について、メカニズムの基礎的理解を図り、保全のための建築設備の省エネルギー化の必要性を理解させる。その他、水環境・光環境・音環境に関する建築設計上の要件と建築設備の補完について理解させる。	
	京都工芸繊維大学	住環境設計マネジメント	街並みや住環境保全のための建築協定の活用方法やマンション管理組合の運営、老朽化した住宅団地の再生手法など、住環境に関するマネージメント手法と法体系について講義する。	
	京都工芸繊維大学	都市・地域設計マネジメント	都市環境における課題を、技術的側面と社会的側面に切り分け、それぞれの課題を整理し、それに対して建築設計や都市計画がどのように対応できるのか、あるいは対応すべきなのかを、具体的な事例を挙げながら学んでいく。ここでは、実際の環境設計の実践からマネジメントの理論を学ぶことで、設計実務に役立つ知識を体系的に身につけることを目指す。地域施設の計画では、市民と地域と建築の調和が求められる。現実には財政問題や環境問題、市民運動などによる厳しい設計条件が課せられることもあり、設計のマネジメント（適切な操作）は複雑になる。ここでは、機能が錯綜している地域文化施設と地域病院を取り上げ、企画段階から実施設計にいたる過程を講義し、実践的な設計マネジメント能力を養う。	
	京都工芸繊維大学	建築構造設計マネジメント	建築物の構造設計について、現在行われている構造設計の現状を述べると共に、最適な構造設計方法のための基礎理論を解説する。	
	京都工芸繊維大学	建築保存再生技術	日本の伝統的な建築の生産現場において用いられてきたさまざまな技術に加え、木造建築の現代的諸問題と木質材料の今後の可能性、近代建築に関する多様な保存・再生の技能のノウハウなどについて、実践的に学ぶ。	

K I T 履修科目

京都工芸繊維大学	建築構造設計技術	建築設計技術者が基本的に知っておくべき構造設計・構造計算の実務的知識と、構造計算の流れを理解するために、具体的建築物を対象として演習・実習を行う。関連する法規・規準について学習する。次いで、現在の構造設計・構造計算にとって不可欠となっているコンピュータを応力解析に用いて、構造計算書の作成までの実習を行う。	
京都工芸繊維大学	建築設備設計技術	建築設備設計技術者が近年特に配慮している環境技術、建築設備技術を紹介する。また、今後の設備設計のあり方について述べ、建築意匠設計者が協同するプロセスで情報提供すべき事項および要求条件などについて論じる。	
京都工芸繊維大学	建築設計学特別講義 III	現代の建築界の最前線で活躍する国内外の建築家、または、構造、設備技術者等を招聘し、その設計方法や建築思想について論じてもらう。	
京都工芸繊維大学	建築設計学特別講義 IV	現代の建築界の最前線で活躍する国内外の建築家、または、構造、設備技術者等を招聘し、その設計方法や建築思想について論じてもらう。	
京都工芸繊維大学	建築再生学特別講義 I	国内外の建築の保存・再生事例について、建築家、研究者、構造・設備技術者等を招聘し、その保存・再生手法や思想について論じてもらう。	
京都工芸繊維大学	建築再生学特別講義 II	国内外の建築の保存・再生事例について、建築家、研究者、構造・設備技術者等を招聘し、その保存・再生手法や思想について論じてもらう。	
京都工芸繊維大学	建築再生学特別講義 III	国内外の建築の保存・再生事例について、建築家、研究者、構造・設備技術者等を招聘し、その保存・再生手法や思想について論じてもらう。	
京都工芸繊維大学	建築再生学特別講義 IV	国内外の建築の保存・再生事例について、建築家、研究者、構造・設備技術者等を招聘し、その保存・再生手法や思想について論じてもらう。	
京都工芸繊維大学	国際設計プロジェクト III	国際的環境下で、建築設計を行い、国際的センスを伴う将来働ける能力やチームワーク力の養成を目的とする。	
京都工芸繊維大学	国際設計プロジェクト IV	国際的環境下で、建築設計を行い、国際的センスを伴う将来働ける能力やチームワーク力の養成を目的とする。	
京都工芸繊維大学	地域設計プロジェクト III	地域における建築設計を行い、地域に根ざした建築を考える能力やチームワーク力の養成を目的とする。	
京都工芸繊維大学	地域設計プロジェクト IV	地域における建築設計を行い、地域に根ざした建築を考える能力やチームワーク力の養成を目的とする。	
京都工芸繊維大学	建築都市保存再生プロジェクト I	実際に建築や都市を再生させた事業について、その過程を現地で学びながら、そこで必要とされる知識と技能について実践的に学ぶ。	
京都工芸繊維大学	建築都市保存再生プロジェクト II	建築都市保存再生プロジェクト I で修得した知識を元に実際の建築や都市を再生させた事業に主体的に参加し、そこで必要とされる集团的・社会的プロジェクトマネジメントに必要な技能を修得する。	
京都工芸繊維大学	建築都市保存再生プロジェクト III	建築都市保存再生プロジェクト I および II で修得した知識・技能に基づき、より課題解決が困難な実際の建築や都市を再生させた事業について、その内容を現地で学びながら、そこで必要とされる知識と技能について実践的に修得する。	
京都工芸繊維大学	建築都市保存再生プロジェクト IV	建築都市保存再生プロジェクト I、II および III で修得した知識・技能に基づき、より課題解決が困難な実際の建築や都市を再生させた事業に主体的に参加し、そこで必要とされる集团的・社会的プロジェクトマネジメントに必要な技能を修得する。	
京都工芸繊維大学	建築設計実務実習 I	連携協力建築設計関係事務所等にて建築実務に従事し、建築設計生産のプロセスについて実習を行い、実務における基礎的知識と技術を身につける。指導においては、建築士の資格を持つものがこれを行う。	
京都工芸繊維大学	建築設計実務実習 II	連携協力建築設計関係事務所等にて建築実務に従事し、建築設計生産のプロセスについて実習を行い、実務において留意すべき項目や事象について理解を深めると共に、これにより得た知識や技術を、自らが自在に使うことの出来るスキルとして身体化する。指導においては、建築士の資格を持つものがこれを行う。	
京都工芸繊維大学	建築設計実務実習 III	連携協力建築設計関係事務所等にて建築実務に従事し、建築設計生産のプロセスについて実習を行う。長期にわたり実務プロジェクトに関わることを通して、設計プロセスにおいて発生する諸問題と設計テーマの実現における関係性について考え、デザインへの昇華法を学ぶ。指導においては、建築士の資格を持つものがこれを行う。	
専門科目	チェンマイ大学	Pre-Graduate Design Studio	建築学の学士号を取得していない学生を対象とした、建築設計に関する準備科目。教員による指導の下、総合的に建築デザインを学び、実践する。関連データ及び技術の収集、提示されたコンセプトの分析、建築・環境(environmental)デザインプロセスの実践、建築専門家レベル同等の建築製図を作成する。
	チェンマイ大学	Pre-Graduate Architectural Theory	建築学の学士号を取得していない学生を対象とした、建築論準備科目。ローマ時代～ポストモダンの建築から総合的に建築・環境デザイン論を学ぶ。
	チェンマイ大学	Pre-Graduate Building Technology	建築学の学士号を取得していない学生を対象とした、建築技術準備科目。関連技術と建築設備システム(building systems)及び建築・設備統合デザインへのアプローチについて総合的に学ぶ。
	チェンマイ大学	Research Methodology in Architecture	研究に係る定義、意義、役割、原則、方式、構成要素・プロセス(processes)、文献査読、情報テクノロジー等の知識を養い、研究及び研究提案書を計画・設計する。

チェンマイ大学	Advanced Specific Architectural Knowledge	建築の哲学、建築論、透視図法 (perspectives)、コンセプトモデル、建築実務を学び、これら知識の学問領域 (discipline) への統合を図る特論科目。	
チェンマイ大学	Graduate Design Studio in Architecture I	教員による指導の下、基礎的な小規模または低複雑度の建築物デザインについて学び、実践する。建築・環境デザインのプロセスを利用し、過去の研究を利用して理論、骨組み、技術を検証、収集、分析する。	
チェンマイ大学	Graduate Design Studio in Architecture II	教員による指導の下、中規模または中複雑度の建築物デザインについて学び、実践する。建築・環境デザインのプロセスを利用し、過去の研究を利用して理論、骨組み、技術を検証、収集、分析する。	
チェンマイ大学	Research for Architectural Design	フィージビリティ・スタディ (事業可能性調査)、デザインロジック、建築的文脈の解析、建築と都市の関係性等を捉えた研究プロセスについて学ぶ。物理的、社会的、文化的、経済的側面の結びつきを考察する。建築におけるアイデンティティデザイン (identity design) を習得する。	
チェンマイ大学	Quantitative Research Methods in Architecture	建築における定量的な研究プロセス、研究パラダイム、研究デザイン、サンプリング法、データ収集及び分析手法について学ぶ。	
チェンマイ大学	Qualitative Research Methods in Architecture	建築における定性的な研究プロセス、研究パラダイム、理論との関係、研究デザイン、事例の選択、研究用機器の設計及びこれらを扱った定性的な研究方法について学ぶ。	
チェンマイ大学	Architectural Technology and Sustainable Environment	建築技術の進歩と持続可能な環境との関係及びこれらが建築へもたらす影響について学ぶ。	
チェンマイ大学	Specific Research in Architecture I	関心領域の知識を身につけ、建築及び関連する領域における、選択した高度なトピックに関する研究スキルを身につけることにより、指導教員の下、これら知識の統合、研究スキルの発揮を図る。	
チェンマイ大学	Specific Research in Architecture II	Specific Research in Architecture I における研究を更に開発・展開する。分析、検証、開発を遂行し、研究内容の信頼性、研究の影響、研究による提言等を評価基準に、応用且つ高度な建築特定研究を完了させる。指導教員の下、行うこととし、体系的な知識の習得、イノベーションの創出を図る。	
チェンマイ大学	Critical Theories of Architecture	建築論の全体像について学ぶ。建築史と建築論の関連性、近代以前の建築論、近代建築論、ポストモダン建築論を含む。	
チェンマイ大学	Critical Practices of Architecture	建築実践の歴史、概念、社会情勢を反映する建築、空間実践の様々なツール、多様性について学ぶ。	
チェンマイ大学	Theory of Architecture in Asia	アジア地域、強いては東アジア、南アジア、東南アジアにおける建築論について学ぶ。アジア建築の創造性に大きく寄与する中国、インド、日本の建築計画・建築デザインのメインコンセプトを重点的に学ぶ。	
チェンマイ大学	Selected Topics in Architectural History and Theory	建築史及び建築論の現在話題のトピックについて学ぶ。	
チェンマイ大学	Properties and Behaviors of Architectural Materials	木材、鉄骨、コンクリート、セメント系材料等、各種建築材料の性質及びそれに伴う検証法を学ぶ。	
チェンマイ大学	Building Technology	大規模建築物及び特殊建築物デザイン、建築情報 (building intelligence) デザイン、現代に活用される地域の建築構法、サステナブル建築の建築技術について学ぶ。ローカル及びグローバルなケーススタディを通し、建築技術の継承及び失敗例を知る。	
チェンマイ大学	Architectural Management	建築プロジェクトマネジメントの原則を理解する。建築プログラム、プロジェクト実施計画・スケジュール、事務所の管理運営及び契約書類のマネジメント、建築法規、ケーススタディを含むリスクマネジメントを習得する。	
チェンマイ大学	Advanced Professional Practices	建築プロジェクトのフィージビリティ・スタディ (事業可能性調査) を分析する。建築事務所の管理体制、位置付けの分析を行う。建築プロジェクトの国際的な役割において十分な協調性を育み、国際的な建築事務所とのやり取りに必要な戦略的計画を実施する。	
チェンマイ大学	Theory and Philosophy in Vernacular Architecture	ヴァナキュラー建築の定義、理論、歴史について学ぶ。要因と決定論、言語と 話法 discourse、認知と現実、コンセプトや意義について考察する。	
チェンマイ大学	Research Approaches in Vernacular Architecture	ヴァナキュラー建築の研究法について学ぶ。実証・調査研究、民族学的なアプローチをしたものやフィールドワークパラドクス (fieldwork paradox) 等の研究法も含む。多次元な研究アプローチ手法について文献等を熟読、記録、分析する。これら知識の解釈、知識の統合を図る。	
チェンマイ大学	Dynamics of Vernacular Architecture	ヴァナキュラー建築を様々な視点で捉える。伝統、伝達、継続と変化、均質性と独自性、観光産業、近代化とグローバル化、真偽性、消費とコモディティ化、サステナビリティ等、ケーススタディを通して多様な観点において学ぶ。	

チェンマイ大学	Urban and Community Planning	西欧諸国における都市・地域づくりの理論、都市環境及び都市景観管理、都市圏の災害管理及び災害軽減プロセスについて学ぶ。	
チェンマイ大学	Principles and Practices in Urban Design	都市計画の基礎・入門科目。都市計画・アーバニズムのコンセプトを形成する“コミュニティ”の定義及びプレイスメイキングの理論を学ぶ。アジア地域における都市開発、都市定住イデオロギー、都市計画に必要な都市研究の枠組みを習得する。また、将来の更なる持続可能なアーバニズムの実現にむけた都市研究及び都市計画の最新動向、理論について知る。	
チェンマイ大学	Environmental Perception and Assessment	環境アセスメントにおけるコンセプトや手法を学ぶ。物理的要因、レスポナント要因等、環境認知・アセスメントに影響を与える因子を認識する。環境刺激、測定概念、測定機器、分析法等、研究プロセスを構成する測定コンポーネントを習得する。これ等知識と環境研究、デザインとの関わり合い及び活用法について理解する。	
チェンマイ大学	Selected Topics in Environment and Behavior	現代の環境行動学に係る環境研究、環境デザイン、環境設計を建築、景観設計、インテリアデザイン、都市・地域づくりに結び付けて考える。	
チェンマイ大学	Special Problem	関心領域における特別な課題において指導教員に相談のうえ、特別研究に取り組む。	

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号(その3の1)に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携教育学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 3 私立の大学若しくは高等専門学校は、収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授業科目の概要(国際連携学科等)				
(京都工芸繊維大学・チェンマイ大学 国際連携建築学専攻)(京都工芸繊維大学)				
科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門一履修推奨科目	京都工芸繊維大学	建築設計実習	建築設計を通して、具体的に設計の実務方法を学ぶ。専攻教員の実務経歴で得られた専門知識にもとづく授業であり、実務訓練と同等となる内容を充足し、実務経験がある教員と学生との一対一の対話型演習が、授業時間の半分以上を占める実践的教育である。合わせて、現在活躍中の建築家を招いて事例にもとづいて双方型の演習を行い、設計の実務経験と同等性を十分に有する建築設計教育を目的とする。いずれの課題においても、指導においては建築士の資格を持つものがこれを行う。	
	京都工芸繊維大学	都市設計実習	建築設計、建築計画、建築保存再生、建築史、都市史、建築構造など各分野における具体的な実務方法を学ぶ。実務訓練と同等となる内容を充足し、教員と学生との一対一の対話型演習を中心とした実践的教育である。	
	京都工芸繊維大学	建築デザイン	現代建築を参考として、またその建築家自身を採り上げ、それらの作品分析や建築家を通し、時代性や場所性の読み取り、計画への落とし込みを探る。建築家としての社会的要求や方向性、そして計画手法や作家性を学ぶ。それぞれの建築作品の特質を読みとり、空間的な魅力をもたらしているものは何かを探り、個々の建築作品の分析を通して建築家の設計手法の違いについても知識を得る事が目的である。	
	京都工芸繊維大学	都市デザイン	個々の建築は都市を構成する文脈の要素として機能している。都市と建築のプロデュース能力を涵養するために、都市の機能と配置、そのデザイン性を追求するための講義である。既存の用途地域策定の都市計画ではなく、建築物群とインフラ群、そしてランドスケープを併せた快適性とデザイン性を有した計画都市を構成するためのスタディを学ぶ。	
	京都工芸繊維大学	安心安全デザイン技術	建築における、転落、転倒、衝突、健康など日常的な安心・安全のためのデザインを考える。また、群衆事故、ビル火災、浸水被害など人命に関わる非日常的な安心・安全のためのデザインを考える。	
	京都工芸繊維大学	国際設計プロジェクトI	国際的環境下で、建築設計を行い、国際的センスを伴う将来働ける能力やチームワーク力の養成を目的とする。	
	京都工芸繊維大学	国際設計プロジェクトII	国際的環境下で、建築設計を行い、国際的センスを伴う将来働ける能力やチームワーク力の養成を目的とする。	
	京都工芸繊維大学	地域設計プロジェクトI	地域における建築設計を行い、地域に根ざした建築を考える能力やチームワーク力の養成を目的とする。	
	京都工芸繊維大学	地域設計プロジェクトII	地域における建築設計を行い、地域に根ざした建築を考える能力やチームワーク力の養成を目的とする。	
	京都工芸繊維大学	建築設計学特別講義I	現代の建築界の最前線で活躍する国内外の建築家、または、構造、設備技術者等を招聘し、その設計方法や建築思想について論じてもらう。	
京都工芸繊維大学	建築設計学特別講義II	現代の建築界の最前線で活躍する国内外の建築家、または、構造、設備技術者等を招聘し、その設計方法や建築思想について論じてもらう。		
修士論文・特定の課題またはそれらの指導に関する科目	京都工芸繊維大学	都市・建築再生学演習I	実際に建築や都市を再生させた事業について、その過程を現地で学びながら、そこで必要とされる知識と技能について実践的に学ぶ。	
	京都工芸繊維大学	都市・建築再生学演習II	実際に建築や都市を再生させた事業について、その過程を現地で学びながら、そこで必要とされる知識と技能について実践的に学ぶ。	
	京都工芸繊維大学	研究指導	建築学専攻都市・建築再生学領域の理念に基づいた研究指導を行なう。研究の成果は、中間発表や学会発表を経て学位論文としてまとめ、修了時には学位論文研究の発表を行ない最終試験を受ける。	
	京都工芸繊維大学	都市・建築空間研究A	空間の有効利用や地域活性化に寄与するための建築的提案について、事例をもとに調査研究、討論し、企画を作成する。専攻教員の実務経歴で得られた専門知識にもとづく授業であり、実務訓練と同等となる内容を充足し、実務経験がある教員と学生との一対一の対話型演習が、授業時間の半分以上を占める実践的教育である。合わせて、事例にもとづいて双方型の演習を行い、設計の実務経験と同等性を十分に有する建築設計教育を目的とする。指導においては、建築士の資格を持つものがこれを行う。	
	京都工芸繊維大学	都市・建築空間研究B	空間の有効利用や地域活性化に寄与するための建築的提案について、事例をもとに調査研究、討論し、企画を作成する。専攻教員の実務経歴で得られた専門知識にもとづく授業であり、実務訓練と同等となる内容を充足し、実務経験がある教員と学生との一対一の対話型演習が、授業時間の半分以上を占める実践的教育である。合わせて、事例にもとづいて双方型の演習を行い、設計の実務経験と同等性を十分に有する建築設計教育を目的とする。指導においては、建築士の資格を持つものがこれを行う。	
	京都工芸繊維大学	特別制作	学生が自主的に取り組んだ建築設計活動、建築調査活動について、学内において一定の発表形式をもってプレゼンテーションさせ、学内教員の評価をもって一定の単位を与える科目である。学習対象が極めて広い建築という分野において、インターンシップのように所定の外部組織に所属して行われる活動以外の社会的活動についても、内容に応じた評価をあたえることで、積極的な社会学習の機会を得ることを目的とする。	

専 門 科 目	K I T 履 修 科 目	京都工芸 繊維大学	建築史	様式や意匠、構造や生産組織、さらには素材や道具といった、日本建築史およびその周辺に関わる様々な事象、あるいは建築における「日本」ないし「和風」という概念を詳細に学ぶことにより、日本建築をより深くかつ正確に理解する。また、西洋建築にアジア・日本近代を加えて「世界建築」とし、その全体像を伝えるとともに、地域・時代の特性に応じてビルディング・タイプあるいは建築思潮に即した各論をも講述する。	
		京都工芸 繊維大学	都市史	特定の地域をフォーカスし、日本の都市成立の特徴について文化との関連も含めて考えていく。また、建築を成立させる世界の都市の歴史について、欧米とアジアを中心に講じる。通史的な概観を基礎として、地域的特質についても適宜触れる。	
		京都工芸 繊維大学	建築力学・構造特論	建築物の静的挙動や地震や風に対する応答を把握するためには、数値解析が不可欠である。建築において理解すべき理論や一般的に使用されている数値解析法について解説するとともに、理論を把握した上でプログラミングを行い、数値解析における問題点・注意点などの理解を深める。	
		京都工芸 繊維大学	建築環境・設備論	環境の生物として恒常性を保つために人体に備わった物理・心理機構の基礎を述べ、その動作方向と快適性について講述する。機械装置を持たないときに人間が環境対処法を様々な工夫してきた歴史を風土建築に辿り、自然利用の要件を際立った形で概観する。暖房・冷房・換気の過去と現在を参照し、アクティブ方策・パッシブ方策の適切な役割を理解させる。地球環境の変遷と現代の温暖化について、メカニズムの基礎的理解を図り、保全のための建築設備の省エネルギー化の必要性を理解させる。その他、水環境・光環境・音環境に関する建築設計上の要件と建築設備の補完について理解させる。	
		京都工芸 繊維大学	住環境設計マネジメント	街並みや住環境保全のための建築協定の活用方法やマンション管理組合の運営、老朽化した住宅団地の再生手法など、住環境に関するマネジメント手法と法体系について講義する。	
		京都工芸 繊維大学	都市・地域設計マネジメント	都市環境における課題を、技術的側面と社会的側面に切り分け、それぞれの課題を整理し、それに対して建築設計や都市計画がどのように対応できるのか、あるいは対応すべきなのかを、具体的な事例を挙げながら学んでいく。ここでは、実際の環境設計の実践からマネジメントの理論を学ぶことで、設計実務に役立つ知識を体系的に身につけることを目指す。地域施設の計画では、市民と地域と建築の調和が求められる。現実には財政問題や環境問題、市民運動などによる厳しい設計条件が課せられることもあり、設計のマネジメント（適切な操作）は複雑になる。ここでは、機能が錯綜している地域文化施設と地域病院を取り上げ、企画段階から実施設計にいたる過程を講義し、実践的な設計マネジメント能力を養う。	
		京都工芸 繊維大学	建築構造設計マネジメント	建築物の構造設計について、現在行われている構造設計の現状を述べると共に、最適な構造設計方法のための基礎理論を解説する。	
		京都工芸 繊維大学	建築保存再生技術	日本の伝統的な建築の生産現場において用いられてきたさまざまな技術に加え、木造建築の現代的諸問題と木質材料の今後の可能性、近代建築に関する多様な保存・再生の技能のノウハウなどについて、実践的に学ぶ。	
		京都工芸 繊維大学	建築構造設計技術	建築設計技術者が基本的な知っておくべき構造設計・構造計算の実務的知識と、構造計算の流れを理解するために、具体的建築物を対象として演習・実習を行う。関連する法規・規準について学習する。次いで、現在の構造設計・構造計算にとって不可欠となっているコンピュータを応力解析に用いて、構造計算書の作成までの実習を行う。	
		京都工芸 繊維大学	建築設備設計技術	建築設備設計技術者が近年特に配慮している環境技術、建築設備技術を紹介する。また、今後の設備設計のあり方について述べ、建築意匠設計者が協同するプロセスで情報提供すべき事項および要求条件などについて論じる。	
		京都工芸 繊維大学	建築設計学特別講義 III	現代の建築界の最前線で活躍する国内外の建築家、または、構造、設備技術者等を招聘し、その設計方法や建築思想について論じてもらう。	
		京都工芸 繊維大学	建築設計学特別講義 IV	現代の建築界の最前線で活躍する国内外の建築家、または、構造、設備技術者等を招聘し、その設計方法や建築思想について論じてもらう。	
		京都工芸 繊維大学	建築再生学特別講義 I	国内外の建築の保存・再生事例について、建築家、研究者、構造・設備技術者等を招聘し、その保存・再生手法や思想について論じてもらう。	
		京都工芸 繊維大学	建築再生学特別講義 II	国内外の建築の保存・再生事例について、建築家、研究者、構造・設備技術者等を招聘し、その保存・再生手法や思想について論じてもらう。	
		京都工芸 繊維大学	建築再生学特別講義 III	国内外の建築の保存・再生事例について、建築家、研究者、構造・設備技術者等を招聘し、その保存・再生手法や思想について論じてもらう。	
		京都工芸 繊維大学	建築再生学特別講義 IV	国内外の建築の保存・再生事例について、建築家、研究者、構造・設備技術者等を招聘し、その保存・再生手法や思想について論じてもらう。	
		京都工芸 繊維大学	国際設計プロジェクト III	国際的環境下で、建築設計を行い、国際的センスを伴う将来働ける能力やチームワーク力の養成を目的とする。	
		京都工芸 繊維大学	国際設計プロジェクト IV	国際的環境下で、建築設計を行い、国際的センスを伴う将来働ける能力やチームワーク力の養成を目的とする。	
		京都工芸 繊維大学	地域設計プロジェクト III	地域における建築設計を行い、地域に根ざした建築を考える能力やチームワーク力の養成を目的とする。	
		京都工芸 繊維大学	地域設計プロジェクト IV	地域における建築設計を行い、地域に根ざした建築を考える能力やチームワーク力の養成を目的とする。	
京都工芸 繊維大学	建築都市保存再生プロジェクト I	実際に建築や都市を再生させた事業について、その過程を現地学びながら、そこで必要とされる知識と技能について実践的に学ぶ。			

京都工芸 繊維大学	建築都市保存再生プロジェクトII	建築都市保存再生プロジェクト1で修得した知識を元に実際の建築や都市を再生させた事業に主体的に参加し、そこで必要とされる集团的・社会的プロジェクトマネジメントに必要な技能を修得する。	
京都工芸 繊維大学	建築都市保存再生プロジェクトIII	建築都市保存再生プロジェクトIおよびIIで修得した知識・技能に基づき、より課題解決が困難な実際の建築や都市を再生させた事業について、その内容を現地で学びながら、そこで必要とされる知識と技能について実践的に修得する。	
京都工芸 繊維大学	建築都市保存再生プロジェクトIV	建築都市保存再生プロジェクトI、IIおよびIIIで修得した知識・技能に基づき、より課題解決が困難な実際の建築や都市を再生させた事業に主体的に参加し、そこで必要とされる集团的・社会的プロジェクトマネジメントに必要な技能を修得する。	
京都工芸 繊維大学	建築設計実務実習I	連携協力建築設計関係事務所等にて建築実務に従事し、建築設計生産のプロセスについて実習を行い、実務における基礎的知識と技術を身につける。指導においては、建築士の資格を持つものがこれを行う。	
京都工芸 繊維大学	建築設計実務実習II	連携協力建築設計関係事務所等にて建築実務に従事し、建築設計生産のプロセスについて実習を行い、実務において留意すべき項目や事象について理解を深めると共に、これにより得た知識や技術を、自らが自在に使うことの出来るスキルとして身体化する。指導においては、建築士の資格を持つものがこれを行う。	
京都工芸 繊維大学	建築設計実務実習III	連携協力建築設計関係事務所等にて建築実務に従事し、建築設計生産のプロセスについて実習を行う。長期にわたり実務プロジェクトに関わることを通して、設計プロセスにおいて発生する諸問題と設計テーマの実現における関係性について考え、デザインへの昇華法を学ぶ。指導においては、建築士の資格を持つものがこれを行う。	

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号(その3の1)に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携教育学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 3 私立の大学若しくは高等専門学校は、収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授業科目の概要（国際連携学科等）				
（京都工芸繊維大学・チェンマイ大学 国際連携建築学専攻）（チェンマイ大学）				
科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門一履修推奨科目	チェンマイ大学	Graduate Design Studio in Architecture III	教員による指導の下、大規模或いは高複雑度の建築物デザインについて学び、実践する。建築・環境デザインのプロセスを利用し、過去の研究を利用して理論、骨組み、技術を検証、収集、分析する。	
	チェンマイ大学	Development and Management of Local Wisdom and Global Technology	建築の伝統知恵とグローバルテクノロジーとの相互作用と重要性、これら知識の建築分野への融合・応用について理解したうえで、伝統建築や建築技術の発展・管理を図る。	
	チェンマイ大学	Application of Theories of Human Behavior in Environmental Studies and Design	人間と環境の関係性について理解する。環境の中での人間の内的行動及び外的行動、生活環境論、人間行動論を学ぶ。行動学的研究にもアプローチし、環境デザインに活かす。	
	チェンマイ大学	Urban Architecture	都市計画と建築の関係性について学ぶ。都市建築の形成と発展、類型、アジア地域の都市建築、タウン建築（town architecture）、都市建築と文化的景観、都市建築への批評等を考察する。	
修士論文・特定の課題またはそれらの指導に関する科目	チェンマイ大学	Thesis	関心領域における特別な課題において指導教員に相談のうえ、修士論文特殊研究に取り組む。	
	チェンマイ大学	Independent Study	研究計画或いは進行中の自主研究計画に基づいて研究を実行する。	
	チェンマイ大学	Pre-Graduate Design Studio	建築学の学士号を取得していない学生を対象とした、建築設計に関する準備科目。教員による指導の下、総合的に建築デザインを学び、実践する。関連データ及び技術の収集、提示されたコンセプトの分析、建築・環境（environmental）デザインプロセスの実践、建築専門家レベル同等の建築製図を作成する。	
	チェンマイ大学	Pre-Graduate Architectural Theory	建築学の学士号を取得していない学生を対象とした、建築論準備科目。ローマ時代～ポストモダンの建築から総合的に建築・環境デザイン論を学ぶ。	
	チェンマイ大学	Pre-Graduate Building Technology	建築学の学士号を取得していない学生を対象とした、建築技術準備科目。関連技術と建築設備システム（building systems）及び建築・設備統合デザインへのアプローチについて総合的に学ぶ。	
	チェンマイ大学	Research Methodology in Architecture	研究に係る定義、意義、役割、原則、方式、構成要素・プロセス（processes）、文献査読、情報テクノロジー等の知識を養い、研究及び研究提案書を計画・設計する。	
	チェンマイ大学	Advanced Specific Architectural Knowledge	建築の哲学、建築論、透視図法（perspectives）、コンセプトモデル、建築実務を学び、これら知識の学問領域（discipline）への統合を図る特論科目。	
	チェンマイ大学	Graduate Design Studio in Architecture I	教員による指導の下、基礎的な小規模或いは低複雑度の建築物デザインについて学び、実践する。建築・環境デザインのプロセスを利用し、過去の研究を利用して理論、骨組み、技術を検証、収集、分析する。	
	チェンマイ大学	Graduate Design Studio in Architecture II	教員による指導の下、中規模或いは中複雑度の建築物デザインについて学び、実践する。建築・環境デザインのプロセスを利用し、過去の研究を利用して理論、骨組み、技術を検証、収集、分析する。	
	チェンマイ大学	Research for Architectural Design	フィージビリティ・スタディ（事業可能性調査）、デザインロジック、建築的文脈の解析、建築と都市の関係性等を捉えた研究プロセスについて学ぶ。物理的、社会的、文化的、経済的側面の結びつきを考察する。建築におけるアイデンティティデザイン（identity design）を習得する。	
	チェンマイ大学	Quantitative Research Methods in Architecture	建築における定量的な研究プロセス、研究パラダイム、研究デザイン、サンプリング法、データ収集及び分析手法について学ぶ。	
チェンマイ大学	Qualitative Research Methods in Architecture	建築における定性的な研究プロセス、研究パラダイム、理論との関係、研究デザイン、事例の選択、研究用機器の設計及びこれらを扱った定性的な研究方法について学ぶ。		

専 門 科 目	C M U 履 修 科 目	チェンマイ大学	Architectural Technology and Sustainable Environment	建築技術の進歩と持続可能な環境との関係及びこれらが建築へもたらす影響について学ぶ。	
		チェンマイ大学	Specific Research in Architecture I	関心領域の知識を身につけ、建築及び関連する領域における、選択した高度なトピックに関する研究スキルを身につけることにより、指導教員の下、これら知識の統合、研究スキルの発揮を図る。	
		チェンマイ大学	Specific Research in Architecture II	Specific Research in Architecture I における研究を更に開発・展開する。分析、検証、開発を遂行し、研究内容の信頼性、研究の影響、研究による提言等を評価基準に、応用且つ高度な建築特定研究を完了させる。指導教員の下、行うこととし、体系的な知識の習得、イノベーションの創出を図る。	
		チェンマイ大学	Critical Theories of Architecture	建築論の全体像について学ぶ。建築史と建築論の関連性、近代以前の建築論、近代建築論、ポストモダン建築論を含む。	
		チェンマイ大学	Critical Practices of Architecture	建築実践の歴史、概念、社会情勢を反映する建築、空間実践の様々なツール、多様性について学ぶ。	
		チェンマイ大学	Theory of Architecture in Asia	アジア地域、強いては東アジア、南アジア、東南アジアにおける建築論について学ぶ。アジア建築の創造性に大きく寄与する中国、インド、日本の建築計画・建築デザインのメインコンセプトを重点的に学ぶ。	
		チェンマイ大学	Selected Topics in Architectural History and Theory	建築史及び建築論の現在話題のトピックについて学ぶ。	
		チェンマイ大学	Properties and Behaviors of Architectural Materials	木材、鉄骨、コンクリート、セメント系材料等、各種建築材料の性質及びそれに伴う検証法を学ぶ。	
		チェンマイ大学	Building Technology	大規模建築物及び特殊建築物デザイン、建築情報 (building intelligence) デザイン、現代に活用される地域の建築構法、サステイナブル建築の建築技術について学ぶ。ローカル及びグローバルなケーススタディを通し、建築技術の継承及び失敗例を知る。	
		チェンマイ大学	Architectural Management	建築プロジェクトマネジメントの原則を理解する。建築プログラム、プロジェクト実施計画・スケジュール、事務所の管理運営及び契約書類のマネジメント、建築法規、ケーススタディを含むリスクマネジメントを習得する。	
		チェンマイ大学	Advanced Professional Practices	建築プロジェクトのフィージビリティ・スタディ (事業可能性調査) を分析する。建築事務所の管理体制、位置付けの分析を行う。建築プロジェクトの国際的な役割において十分な協調性を育み、国際的な建築事務所とのやり取りに必要な戦略的計画を実施する。	
		チェンマイ大学	Theory and Philosophy in Vernacular Architecture	ヴァナキュラー建築の定義、理論、歴史について学ぶ。要因と決定論、言語と 話法 discourse、認知と現実、コンセプトや意義について考察する。	
		チェンマイ大学	Research Approaches in Vernacular Architecture	ヴァナキュラー建築の研究法について学ぶ。実証・調査研究、民族学的なアプローチをしたものやフィールドワークパラドクス (fieldwork paradox) 等の研究法も含む。多次元な研究アプローチ手法について文献等を熟読、記録、分析する。これら知識の解釈、知識の統合を図る。	
		チェンマイ大学	Dynamics of Vernacular Architecture	ヴァナキュラー建築を様々な視点で捉える。伝統、伝達、継続と変化、均質性と独自性、観光産業、近代化とグローバル化、真偽性、消費とコモディティ化、サステイナビリティ等、ケーススタディを通して多様な観点において学ぶ。	
		チェンマイ大学	Urban and Community Planning	西欧諸国における都市・地域づくりの理論、都市環境及び都市景観管理、都市圏の災害管理及び災害軽減プロセスについて学ぶ。	
チェンマイ大学	Principles and Practices in Urban Design	都市計画の基礎・入門科目。都市計画・アーバンイズムのコンセプトを形成する“コミュニティ”の定義及びプレイスメイキングの理論を学ぶ。アジア地域における都市開発、都市定住イデオロギー、都市計画に必要な都市研究の枠組みを習得する。また、将来の更なる持続可能なアーバンイズムの実現にむけた都市研究及び都市計画の最新動向、理論について知る。			
チェンマイ大学	Environmental Perception and Assessment	環境アセスメントにおけるコンセプトや手法を学ぶ。物理的要因、レスポナント要因等、環境認知・アセスメントに影響を与える因子を認識する。環境刺激、測定概念、測定機器、分析法等、研究プロセスを構成する測定コンポーネントを習得する。これ等知識と環境研究、デザインとの関わり合い及び活用法について理解する。			
チェンマイ大学	Selected Topics in Environment and Behavior	現代の環境行動学に係る環境研究、環境デザイン、環境設計を建築、景観設計、インテリアデザイン、都市・地域づくりに結び付けて考える。			
チェンマイ大学	Special Problem	関心領域における特別な課題において指導教員に相談のうえ、特別研究に取り組む。			

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号 (その3の1) に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携教育学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 3 私立の大学若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。